

大阪市営交通の民営化

大阪に住んで2ヶ月。生活にも慣れてきて、いつものペースが戻ってきた。だが大阪の政治には理解に苦しみ怒りを覚えることが多く、調査・研究など「やる気」もだんだんと出てきた。

写真は大阪市交通局が発行したリーフレット。2018年4月1日、大阪市営「地下鉄・バスが変わります!」。大阪市営地下鉄は大阪市高速電気軌道(株)に。大阪市営バスは大阪シティバス(株)に移行する。都市交通事業の「民営化」である。



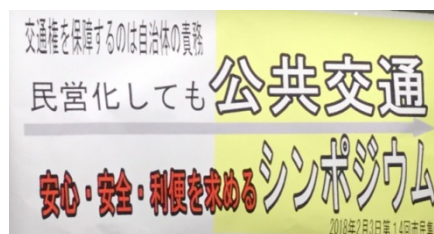
地下鉄民営化の目的は「走り続けるために 変わります」

ポイント1は、スピーディなサービス改善。民営化後は公営の制約がなくなり、みずらの判断と責任の下で、ニーズを機敏に捉え、スピード感をもってお客さまに実感いただけるサービスを展開していきます。ポイント2は、多様な事業展開。新たな収益の柱を育て、鉄道事業の持続・発展につなげるとともに、沿線・地域の活性化に貢献します。ポイント3は、経営体質の強化。経営力の強化により、新たな安全施策・サービス投資資金を確保します。地下鉄新会社から大阪市への納税・配当により、年間約100億円(民営化10年目の試算)の財政貢献を果たします。

市バス民営化の目的は「変わるけど 変わらない」

市民・お客さまに必要な路線・サービスを、将来に亘り持続的・安定的に提供することが目的。バス事業のこれからとして、路線の維持とサービス向上、安全確保をあげる。

このリーフレットを何回読んでも、何が言いたいのか難解であり、今なぜ、わざわざ「民営化」するのか理解できなかつた。それで、たまたま知った2月3日開催の写真のシンポジウムに参加した。主催は2012年11月結成の「大阪市営交通の会」。橋下市政からの「民営化」の流れ、それに抗議する市民の粘り強い運動などを理解することができた。



土曜日3週連続でシンポジウムに参加し、今回も挙手をして発言した。大阪に住むようになり、積極的になったものだと我ながら感心。敬老パスや地下鉄料金から語り始め、関一市長の時代に作られた大阪市営地下鉄をなぜ民営化するのか、カジノ万博と維新政治についての意見を述べた。会場からの拍手に、元気をもらった。定期券で毎日利用している地下鉄などについて、関心をもち続けたい。

(2018年2月5日)